



© 藤本史昭

ヴァイオリンリサイタル

石田 泰尚の世界

石田泰尚（ヴァイオリン）

YASUNAO ISHIDA

神奈川県出身。国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。

新星日本交響楽団コンサートマスターを経て、2001年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来“神奈川フィルの顔”となり現在は首席ソロ・コンサートマスターとしてその重責を担っている。

これまでに神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。幅広いレパートリーを誇り神奈川フィル他各地のオーケストラと協奏曲の演奏やリサイタルを行いソリストとしての顔も持つ。自身がプロデュースした男性奏者のみの弦楽アンサンブル“石田組”、新しいスタイルのピアソラを追及した“トリオリベルタ”、ピアニスト及川浩治の呼びかけで結成されたピアノトリオ“Bee”など、様々なユニットでも独特の輝きを見せる。

結成時から参加するYAMATO S.Q では20年以上に渡り唯一無二のヴァイオリニストとしてグループの方向性を決定づけてきた。

2018年「音楽の友」4月号「クラシック音楽ベストテン」においてソリスト・室内楽など4部門にランクインするなど各方面から高く評価されている。録音も多く2016年発売の“石田泰尚/LIVE”、2017年発売の“ALLBRAHMS LIVE”は共にレコード芸術誌上で準特選、さらに石田組デビューアルバム“THE石田組”は特選盤の評価を得た。2018年には石田組がNHK-FM「ベストオブクラシック」およびBSプレミアム「クラシック倶楽部」で放送されその熱いステージの模様は大きな反響を呼んだ。

使用楽器は1690年製 G. Tononi, 1726年製 M.Goffriller.



中島 剛（ピアノ）

GO NAKAJIMA

東邦音楽大学を首席で卒業。第64回読売新人演奏会出演。1996年からハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。

ウィーンでのピアノ・リサイタルなどを経て、2002年ウィーンを訪問された天皇后両陛下の歓迎レセプションで、ウィーンの若き音楽家の一人として紹介された。CHANEL NEXUS HALLにて CHANEL Pygmalion Days (2005年)坂本龍一プロデュース「ロハスクラシック・コンサート2006」などへの参加をはじめ、多くのリサイタルを開催し常に好評を博している。

またジョン・健・スツォ、ウィーン・フィル コン서트マスター ライナー・キュッヘル、ソプラノ唐澤まゆ子、マリンバ池上英樹、ソプラノ柴田智子、歌手麻衣、バンドネオン三浦一馬、ウィーン・フィル/トーマス・ヴィンクラット、神奈川フィル/ソロコンサートマスター石田泰尚の各氏と共演するほか、2008年には自身のFirst Album「SUMMER SKETCH」をリリースしている。日本各地での演奏活動のほか、『ショコラ ド マリア・カラス』ではソプラノ柴田智子氏、浅倉大介氏と共演、演奏と役者を演じ、アトリエダンカンプロデュース、ミュージカル「カルテット」(2012年4月)に出演。2013年より小松英典氏と共演の機会を得る。シューベルト『美しき水車小屋の乙女』全曲演奏をするなど今後の演奏活動が益々期待される。2012、2013年森山良子Ryoko Classicsツアーにて共演。またJ-WAVE『ロハストーク』(2010年1月)に出演するなど、多岐に亘る活動を展開、今後ますます期待される注目のアーティストである。

現在、東邦音楽大学講師。